



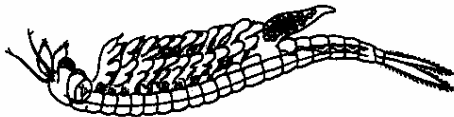
オバケエビは、なぜ^{ひかり}光^{あつ}に集まるの

オバケエビは、ミジンコなどの^{なかま}仲間

ふつう、オバケエビとよばれているものは、ホウネンエビや、カブトエビ、アルテミア(ブライシユリンブともよばれる)などのことです。これらは、どれも、乾燥した^{かんそう}卵^{たまご}のまま、保存^{ほぞん}ができ、水^{みず}にもどしてやると、卵^{たまご}から小さなエビが^{ちい}ふ化^かしてきます。大きさは、3種類^{しゅるい}とも、体長^{たいちよう}1~2センチメートルと小さく、形^{かたち}はエビのようです。でも、動物^{どうぶつ}の仲間^{なかま}分けでは、エビではなく、ミジンコなどに近い仲間^{ちか なかま}に入ります。アルテミアは、海外^{かいがい}の塩水^{えんすい}湖^こにすんでいます。ホウネンエビやカブトエビは、水田^{すいでん}にすみ、初夏^{しよか}のころ卵^{たまご}からかえって、背中^{せなか}を下^{した}にし、たくさんある足^{あし}を動か^{うご}かして泳ぎます。

なぜ、^{ひかり}光^{あつ}に集まるのか

プランクトンやゾウリムシなど、進化^{しんか}が進^{すす}んでいない原始的な生き物は、光^{ひかり}や電気^{でんき}や水^{みず}にとけた成分^{せいぶん}などのしげきに、すぐ行動^{こうどう}します。光^{ひかり}に集^{あつ}まってくる性質^{せいしつ}(走光性^{そうこうせい}という)をもつものもいますが、逆^{ぎゃく}に、光^{ひかり}と反対側^{はんたいがわ}ににげる性質^{せいしつ}のものもいます。また、磁石^{じしゃく}を近づ^{ちか}けたり、電気^{でんき}を流^{なが}したりすると、動き出^{うご}すものもたくさんいます。こん虫^{ちゅう}や魚^{さかな}の中^{なか}にも、光^{ひかり}に集^{あつ}まる習性^{しゅうせい}のものが、たくさんいます。なぜ、そのような性質^{せいしつ}をもっているのかは、わかっていません。光^{ひかり}の方^{ほう}にいけば、えさの獲物^{えもの}がたくさんいるからと説明^{せつめい}されることもあります。火^ひに飛びこんで、死ぬ^し虫^{ちゅう}も多いのです。必ずしも、生きるのに役立^{やくだ}っているとはいえないため、うまく説明^{せつめい}がつかないのです。(監修・安部 義孝)



腹を上にして泳ぐホウネンエビ



アルテミア

